

○ 中学校社会 第2学年 ⑤

「身近な地域の調査」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関意	思判表	知技理
(1)	略地図に示された情報に基づいて工場立地の根拠を判断させる問題である。工業団地等の立地条件に関する知識を活用し、提示情報と関連付けて考察する力が必要である。	地理的分野 (2)エ 身近な地域の調査  身近な地域としての架空の地域を設定し、これまでに獲得した地理的な見方や考え方を総合的に問う活用問題としている。	◎	○	○
(2)	Zのグラフ資料には19～25歳の若年層割合に特徴があることに気付くとともに、その理由を略地図や資料2に示されている情報と関連付けて考察する力が必要である。	略地図から地形情報や立地情報などを読み取るとともに、その情報を提示資料と関連付けながら判断したり、これまでの学習で獲得した社会認識などを踏まえて未来予測をさせるような問題構成としている。	◎	◎	
(3)	資料4から昼夜間人口差の特徴を的確に読み取った上で、その要因について、略地図や資料2に示されている情報を総合的に関連付けながら考察する力が必要である。	問題を解く際には、これまでの地理の学習で習得した見方や考え方を総動員しながら、根拠に基づいて的確に判断したり、現実の社会を想起しながら予測を立てる力が必要である。	◎	◎	○
(4)	略地図と資料2の提示情報を踏まえながら、消費者の動向に関する知識を想起したり、経済効果を予測したりしながら、地域の活性化に対する関心・意欲も交えながら未来予測をする力を問う問題である。総合的な判断力が必要である。		○	◎	○